

古文ドリル：「けむ」の用法識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「けむ」の3用法

古文の助動詞「けむ」は、**連用形接続**の**過去推量**の助動詞。過去について「～たであろう」と推測する。

用法	訳	判別ポイント
① 過去推量	～たであろう	過去の出来事を推測（文末）
② 過去の原因推量	（どうして）～たのだろう	「など・なぜ・いかで」と呼応
③ 過去の伝聞・婉曲	～たとかいう・～たような	体言の前

「らむ」（現在推量）の**過去版**にあたる助動詞。

識別の鉄則 1. 直後に体言 → 婉曲 2. 文中に疑問詞 → 原因推量 3. 上記以外で文末 → 過去推量

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「けむ」の直後が体言なら 即・婉曲

「けむ＋名詞」のパターンは **8割が婉曲**。考えずに即答してOK。例：住み**けむ**人 / 渡り**けむ**僧 / 咲き**けむ**花

→ 「**けむ＋人／僧／花／頃／こと**」を見たら即「婉曲」。

コツ② 文頭・文中の 疑問詞 だけ拾え

「いかで／いかに／いかなる／なぜ／なぜ／何（なに・なん）／何処（いづこ）」のどれかが文中にあれば **原因推量**。他は無視してこの疑問詞だけ探すのが最速。

例：**なぜ**昔の都は捨てられ**けむ** / **いかなる**縁にて遭ひ**けむ**

→ 疑問詞ナシなら「過去推量」か「婉曲」のどちらかしか残らない。

コツ③ 文末「けむ。」は過去推量で確定

直後が句点／「かな」／「や」（終助詞）で文が終わる → 過去推量。例：花咲きけむ。／月愛でけむかな。

→ ただし「こそ」が前にあれば已然形「けめ」になる（「こそ～けめ」結び）。

コツ④ 「を」「が」が後ろにある → 準体・婉曲を疑う

「～けむを」「～けむが」は連体形＋準体助詞で、婉曲（～たというのを）と訳す。

試験本番でのチェック順序

1. 直後が体言 → 婉曲（即答）
2. 文中に疑問詞（いかで・なぜ・何など） → 原因推量
3. 文末（句点・かな・や） → 過去推量
4. 「こそ～けめ」 → 已然形・過去推量

→ この順番で3秒で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「たる」「ける」「けり」を「けむ」と読み間違える → 「けむ」の「む」を必ず確認
- 「けめ」は「こそ」の結びで已然形（過去推量・原因推量どちらでも）
- 疑問詞があっても体言の前にあるなら婉曲が優先（例：「いかなる人けむ」より「いかなる人ありけむ」のように動詞下接かを見る）

採点表

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔、ある所に住みけむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「昔、ある所に住んでいたとかいう人」。

Q2. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き都に花咲きけむ。

答え：過去推量 解説：文末。「古き都に花が咲いたであろう」。

Q3. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

など昔の人は嘆きけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「など」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして昔の人は嘆いたのだろう」。古文では「なぜ」ではなく「など・なぞ・いかで・なにゆゑに」を用いる。

Q4. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土に渡りけむ僧。

答え：婉曲 解説：体言「僧」の前。「中国に渡ったとかいう僧」。

Q5. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔、世にありし人は皆、月を愛でけむ。

答え：過去推量 解説：文末。「皆、月を愛でたであろう」。

Q6. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる縁にて、かかる目に遭ひけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる縁にて」（疑問）。「どんな縁で、こんな目に遭ったのだろう」。

Q7. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負ひけむ都鳥。

答え：婉曲 解説：体言「都鳥」の前。「名前として持っていたとかいう都鳥」。

Q8. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の人、いま何処へ行きけむ。

答え：過去推量（疑問） 解説：「何処へ」は場所疑問詞であり、原因疑問詞ではない。「昔の人は、どこへ行ったのだろうか」。

Q9. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都に住みけむ人ら。

答え：婉曲 解説：体言「人ら」の前。竹取物語的。「月の都に住んでいたとかいう人々」。

Q10. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の歌詠みは、いかに思ひけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかに」と呼応。「昔の歌詠みは、どのように思ったのだろうか」。

Q11. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き時代に栄えけむ国。

答え：婉曲 解説：体言「国」の前。「古い時代に栄えていたとかいう国」。

Q12. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥、わが思ふ人はありやなしやと、いかなるを問ひけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなるを」（疑問）。「どのようなものを尋ねたのだろうか」。

Q13. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典作家、いかなる景色を見けむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる」と呼応。「古典作家は、どんな景色を見たのだろうか」。

Q14. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

鳴き渡りけむ鳥の声、なほ耳に残る。

答え：婉曲 解説：体言「鳥の声」の前。「鳴き渡ったとかいう鳥の声」。

Q15. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代にありけむこと、いま伝はず。

答え：婉曲 解説：体言「こと」の前。連用形「あり」＋「けむ」。「古代にあったとかいうことが、今は伝わらない」。

Q16. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

なぞ昔の都は捨てられけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「なぞ」(=どうして)と呼応。「どうして昔の都は捨てられたのだろう」。

Q17. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

過ぎし夏、海辺に遊びけむ人ら。

答え：婉曲 解説：体言「人ら」の前。「過ぎ去った夏、海辺で遊んだとかいう人々」。

Q18. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代の宮、いま何処にありけむ。

答え：過去推量（疑問） 解説：「何処に」は場所疑問詞であり、原因疑問詞ではない。「古代の宮は、いまどこにあったのだろう」。

Q19. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春に咲きけむ桜、なほ思ひ出づ。

答え：婉曲 解説：体言「桜」の前。「春に咲いたとかいう桜」。

Q20. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の都の道、いかなる人ら歩みけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる」と呼応。「昔の都の道を、どのような人々が歩いたのだろう」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

Q21. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土の人、書きとどめけむ書物、いまも伝はる。

答え：婉曲 解説：体言「書物」の前。「中国の人が書き留めたとかいう書物」。

Q22. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかにありし世にやありけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかに」と呼応。「どのような世であったのだろうか」。

Q23. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

雪深く積もりけむ山、いまだ青し。

答え：婉曲 解説：体言「山」の前。「雪が深く積もったとかいう山」。

Q24. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

なぞ唐土の人は和歌を解せざりけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「なぞ」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして中国の人は和歌を解さなかったのだろうか」。古文では「なぜ」ではなく「など・なぞ・いかで」を用いる。

Q25. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都を出でけむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「月の都を出たとかいう人」。

Q26. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる夢を見けむ人ぞ、いま起きたる。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる」と呼応。「どんな夢を見たのか、今、起きた」。

Q27. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔より伝はりけむ話、なほ尽きず。

答え：婉曲 解説：体言「話」の前。「昔から伝わったとかいう話」。

Q28. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が祖父、いかなる人にありけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる人」(疑問)。「私の祖父は、どんな人だったのだろう」。

Q29. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏に祈りけむ僧、いまもありや。

答え：婉曲 解説：体言「僧」の前。「仏に祈ったとかいう僧」。

Q30. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いと尊くおはしけむ御方なり。

答え：婉曲 解説：体言「御方」の前。「とても尊くいらっしゃったとかいうお方だ」。

Q31. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかで春は来たりけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかで」＋過去推量。「どうして春は来たのだろうか」。

Q32. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代にありし都人、月を愛でけむかな。

答え：過去推量 解説：文末＋詠嘆「かな」。「月を愛でたであろうことよ」。

Q33. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

あひ知りけむ人にて、なほ親しき。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「知り合いだったとかいう人で、なお親しい」。

Q34. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘みけむ人ら、いまでも忘れず。

答え：婉曲 解説：体言「人ら」の前。「春の野で若菜を摘んだとかいう人々を、今も忘れない」。

Q35. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかで悲しき夢を見けむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかで」（古文の疑問副詞「どうして」）と呼応。「どうして悲しい夢を見たのだろうか」。古文の疑問副詞には「いかで・など・なぞ・なにゆゑに」がある。

Q36. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が父、いま何方にありけむ。

答え：過去推量（疑問） 解説：「何方に」は場所疑問詞であり、原因疑問詞ではない。「私の父は、どこにいたのだろうか」。

Q37. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

京に住みけむ人、なほ忘れず。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「京に住んでいたとかいう人を、なお忘れない」。

Q38. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典の中にありけむ言葉。

答え：婉曲 解説：体言「言葉」の前。連用形「あり」＋「けむ」。「古典の中にあつたとかいう言葉」。

Q39. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

笛の音を聞きけむ夜、なほ忘れがたし。

答え：婉曲 解説：体言「夜」の前。「笛の音を聞いたとかいう夜」。

Q40. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかでかかる宝を得けむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかで」と呼応。「どうしてこのような宝を得たのだろうか」。

Q41. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土に渡りけむ人々、なほ故郷を恋ふ。

答え：婉曲 解説：体言「人々」の前。「中国に渡ったとかいう人々」。

Q42. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春の夜、見けむ月かげ、いまも忘れず。

答え：婉曲 解説：体言「月かげ」の前。「春の夜に見たとかいう月の光」。

Q43. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

昔の世、いかなる風ぞ吹きけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる」と呼応。「昔の世に、どんな風が吹いたのだろうか」。

Q44. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が母、若き時にいかにありけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかに」と呼応。連用形「あり」＋「けむ」。「私の母は、若い時にどうしていたのだろう」。

Q45. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

山中に隠れけむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「山中に隠れていたとかいう人」。

Q46. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き友、いま何方にありけむかな。

答え：過去の原因推量 解説：「何方に」（疑問）＋詠嘆「かな」。「古き友は、今ごろどこにいたのだろうかなあ」。

Q47. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春来にけむ頃、まだ雪深し。

答え：婉曲 解説：体言「頃」の前。カ変連用「き」＋完了「ぬ」連用「に」＋「けむ」。「春が来てしまったとかいう頃、まだ雪深い」。

Q48. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる御縁にて、かく長く生き給ひけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる御縁にて」（疑問）。「どんなご縁で、こんなに長く生きていらしたのだろう」。

Q49. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

風雅を解しけむ人にこそ、なほ尊し。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前＋係助詞「こそ」。「風雅を解したとかいう人にこそ、なお尊い」。

Q50. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き京を捨て**けむ**ぞ、惜しき。

答え：過去推量 **解説：**「ぞ」（係助詞）＋連体形「けむ」結び。「古い京を捨てたのが、惜しい」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

Q51. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へ**けむ**。

答え：過去推量（已然形「けめ」、係助詞「こそ」の結び） **解説：**徒然草の有名な一節。「中国の人は、これを優れていると思ったからこそ、書き留めて世にも伝えたのだろう」。

Q52. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いみじき宿世の人にあり**けむ**を、いま忘れぬ。

答え：過去推量 **解説：**「あり」連用＋「けむ」＋準体「を」。「並々ならぬ宿縁の人だったであろうことを、今忘れない」。

Q53. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかでかざるべき御縁にてあり**けむ**。

答え：過去の原因推量 **解説：**「いかでか」＋「けむ」。「どうしてそのようなご縁であったのだろう」。

Q54. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都に住み**けむ**人々、いまでも消えぬ。

答え：婉曲 **解説：**体言「人々」の前。「月の都に住んでいたとかいう人々が、今も消えない」。

Q55. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き世にありけむ仏徳、いま尽きず。

答え：婉曲 **解説：**体言「仏徳」の前。連用形「あり」＋「けむ」。「古い世にあったとかいう仏の徳が、今、尽きない」。

Q56. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何の縁にて、かく永く語り伝へけむ。

答え：過去の原因推量 **解説：**「何の縁にて」（疑問）。「どんな縁で、こんなに永く語り伝えたのだろう」。

Q57. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏前に祈りけむ心ぞ尊き。

答え：婉曲 **解説：**体言「心」の前＋係助詞「ぞ」。「仏前に祈ったとかいう心が尊い」。

Q58. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典作家、何を思ひて筆を執りけむ。

答え：過去の原因推量 **解説：**「何を」（疑問）。「古典作家は、何を思って筆を執ったのだろうか」。

Q59. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

都人、唐土に渡りけむ頃、いま月清く。

答え：婉曲 **解説：**体言「頃」の前。「都人が中国に渡ったとかいう頃、いま月が清らかである」。

Q60. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

かの人、若かりし頃は歌詠みけむを、いまは詠まず。

答え：過去推量 **解説：**「けむ」は過去の事柄を推量。3人称「かの人」が主語。「あの人は、若い頃は歌を詠んだのだろうに、今は詠まない」（逆接）。

Q61. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代の人、いかなる文字を書きけむぞ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる」＋「けむ」。「古代の人は、どんな文字を書いたのだろうか」。

Q62. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負ふ都鳥、ありし日に何を語りけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「何を」（疑問）。「都鳥は、過去の日に何を語ったのだろうか」。

Q63. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き寺を建てけむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「古い寺を建てたとかいう人」。

Q64. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春雨降りけむ夜、なほ忘れず。

答え：婉曲 解説：体言「夜」の前。「春雨が降ったとかいう夜を、なお忘れない」。

Q65. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の出でけむ山際、なほ晴れわたる。

答え：婉曲 解説：体言「山際」の前。「月が出たとかいう山際、なお晴れわたっている」。

Q66. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

ありがたきもの、いま見えけむやうに、世になし。

答え：婉曲 解説：下二段「見ゆ」連用「見え」＋「けむ」。「めったにないもの、いま見えたかのやうに、世にない」。

Q67. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥、いかにありけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかに」と呼応。連用形「あり」＋「けむ」。「どうしていたのだろう」。

Q68. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏の道、古き世に栄えけむを、いまや衰へぬ。

答え：婉曲 解説：「を」（準体）。「仏の道は、古き世に栄えていたとかいうのを、今は衰えてしまった」。

Q69. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

玉のごとくありけむ御身、いまや散りぬ。

答え：過去の婉曲 解説：「けむ」は連用形接続。ラ変動詞「あり」の連用形「あり」＋「けむ」。体言「御身」の前にあるので過去の婉曲。「玉のようであったとかいう御身、いまや散ってしまった」。

Q70. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかで老いけむかと、嘆く。

答え：過去の原因推量 解説：「いかで」＋「けむ」。「どうして老いてしまったのだろうと、嘆く」。

Q71. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典をひもときしけむ人。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「古典をひもといたとかいう人」。

Q72. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春の野に咲きけむ花、いま尽きぬ。

答え：婉曲 解説：体言「花」の前。「春の野に咲いたとかいう花、いま尽きない」。

Q73. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何の故にて、かかる目に遭ひ**けむ**。

答え：過去の原因推量 **解説：**「何の故にて」（疑問）。「どんな理由で、こんな目に遭ったのだろう」。

Q74. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

山深く隠れ住み**けむ**人、いまでも忘れず。

答え：婉曲 **解説：**体言「人」の前。「山深く隠れ住んだとかいう人」。

Q75. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかにか思ひ**けむ**かな、世の人の心。

答え：過去の原因推量 **解説：**「いかにか」＋「けむ」＋詠嘆「かな」。「どのように思ったのだろうかなあ、世の人の心」。

Q76. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き人、皆嘆き**けむ**世の事。

答え：婉曲 **解説：**体言「事」の前。「古き人皆が嘆いたとかいう世の事」。

Q77. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何処にあり**けむ**わが祖。

答え：過去推量（疑問） **解説：**「何処に」は場所疑問詞であり、原因疑問詞ではない。連用形「あり」＋「けむ」。「どこにいたのだろう、私の祖先は」。

Q78. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春雪の降り**けむ**山里、なほ寒し。

答え：婉曲 **解説：**体言「山里」の前。「春雪が降ったとかいう山里、なお寒い」。

Q79. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる人にありけむかと尋ぬ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる人」＋「けむ」＋引用。「『どんな人だったのだろう』と尋ねる」。

Q80. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き和歌を詠みけむ人々の心、いまも生きたり。

答え：婉曲 解説：体言「人々」の前。「古き和歌を詠んだとかいう人々の心、今も生きている」。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル (Q81～Q100)

Q81. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけむ、これらは、ただ夢のごとくにぞある。

答え：過去推量（已然形「けむ」、係助詞「こそ」の結び） 解説：徒然草の有名な一節。「中国の人は、これを優れていると思ったからこそ、書き留めて世にも伝えたのだろう」。

Q82. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥、わが思ふ人はありやなしやと、いかにありけむ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかに」（古文の疑問副詞）と呼応。「けむ」は連用形接続なので「あり」（ラ変連用形）＋「けむ」。伊勢物語の歌の派生。「『私の思う人はいるかいらないか』とどうしていたのだろう」。

Q83. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春は名のみ風の寒さや、谷の鶯歌は思へど、時にあらざりけむゆゑにこそ、声を立てね。

答え：過去推量（已然形「けめ」は「ね」結びの前提として、ここは「ざりけむ」連用形＋「ゆゑに」）**解説：**「ざり」（打消「ず」連用）＋「けむ」。「こそ」の結びは已然形「ね」（打消「ず」已然）。「時節ではなかったがゆゑにこそ、声を立てないのだ」。

Q84. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古今の歌人、なほ心を尽くしてあり**けむ**。

答え：過去推量 **解説：**文末。「古今の歌人は、なお心を尽くしてあったであろう」。

Q85. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

物のあはれを知り**けむ**人にこそ、なほ古典は伝はれ。

答え：過去の婉曲 **解説：**体言「人」の前にあるので過去の婉曲。係助詞「こそ」の結びは已然形「伝はれ」（四段動詞「伝はる」已然形）。「物のあわれを知ったような人にこそ、なお古典は伝わる」。

Q86. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

雪のいと高う降り**けむ**を、今に思ひ出づ。

答え：過去推量・婉曲 **解説：**「を」（準体）。「雪がとても高く降ったとかいうのを、今に思い出す」。

Q87. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

何ゆゑに古典は伝はり**けむ**。

答え：過去の原因推量 **解説：**「何ゆゑに」と呼応。「どんな理由で古典が伝わったのだろう」。

Q88. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

春過ぎて夏来に**けむ**頃。

答え：婉曲 **解説：**体言「頃」の前。カ変連用「き」＋完了「ぬ」連用「に」＋「けむ」。「春が過ぎて夏が来てしまったとかいう頃」。

Q89. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

月の都の人によりけむを、世の人はいかでか知らむ。

答え：過去推量・婉曲 解説：「を」（準体・逆接）。「月の都の人だったとかいうのを、世の人はどうして知ろうか」。

Q90. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いかなる宿世にてありけむにや、と思ふ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかなる」＋「けむ」＋「にや」（疑問）。「どんな宿縁であったのだろうか、と思う」。

Q91. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古き時代に栄えけむ国も、いまや滅びぬ。

答え：婉曲 解説：体言「国」の前。「古い時代に栄えたとかいう国も、今や滅んでしまった」。

Q92. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

仏に祈りけむ僧、なほ生きてありけむ。

答え：両方とも婉曲（最初）・過去推量（後） 解説：- 最初：「祈ったとかいう僧」（婉曲） - 後：「なお生きていたであろう」（過去推量）

Q93. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古代の歌人、いかにありけむかな。

答え：過去の原因推量 解説：「いかに」＋連用形「あり」＋「けむ」＋詠嘆「かな」。「古代の歌人は、どのようにいたのだろうかなあ」。

Q94. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

風雅を解しけむ人にあらずは、これを尊しと思はじ。

答え：婉曲 解説：体言「人」の前。「風雅を解したとかいう人でなければ、これを尊いと思わないだろう」。

Q95. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

我が祖の世にありて、いかにありけむかを尋ぬ。

答え：過去の原因推量 解説：「いかに」＋連用形「あり」＋「けむ」＋準体「か」。「私の祖の世にあつて、どうしていたのかを尋ねる」。

Q96. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

嵐山の紅葉、いま錦のごとし。ありし日もかくありけむ。

答え：過去推量 解説：文末。連用形「あり」＋「けむ」。「過去の日も、こうあつたであろう」。

Q97. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

いみじき宿世にて、月を見けむ御方。

答え：婉曲 解説：体言「御方」の前。「並々ならぬ宿縁で、月を見たとかいうお方」。

Q98. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

古典にありけむ事、いま、こと多くなしと言ふべからず。

答え：婉曲 解説：体言「事」の前。「古典にあつたとかいう事を、今、ことが多くないと言えない」。

Q99. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

行く川のながれは絶えず、もとの水にあらず。古き人皆、これを見けむ。

答え：過去推量 解説：方丈記の改変。「古い人皆、これを見たであろう」。

Q100. 次の傍線部「けむ」の用法を答えよ。

物のあはれを知りけむ人々の心、いまも我れに伝はる。

答え：婉曲 解説：体言「人々」の前。「物のあわれを知ったとかいう人々の心、今も私に伝わる」。

入試レベル /20

合計 /100

あしがき

「けむ」の識別の核心： - 直後 を確認：体言なら婉曲、文末なら推量 - 疑問詞 があれば原因推量 - 「けむ」は 過去のこ と を推測（現在の「らむ」と対比）

「けむ」「らむ」「べし」「まし」など、推量系の助動詞は、活用形・接続・意味の3点で区別すること。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosenensei.com>